人権啓発資料法務大臣表彰 優秀賞

教育映像祭 優秀作品賞

ほんとの空

白石美帆　鳥羽　潤

湯浅美和子　浦上晟周　石川大樹

企画のねらい

「意識と人権」～あなたの思いを　わたしのものに～

高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権課題に共通する根っこの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。

誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解しています。その一方で、私たちは自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するけれど、それ以外のことには他人事のように感じたりします。また、私たちは、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかずに、他者を排除したり、傷つけたりしがちです。

このドラマの主人公・弓枝もそんな一人です。弓枝の心を揺さぶったのは、息子である輝の友だちを思う純粋な気持ちと、同じ集合住宅に他国から引っ越してきた隣人です。

誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげてもらうために、このドラマを制作しました。

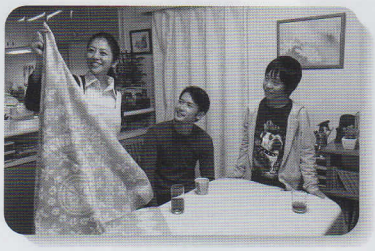
企　　画／兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
企画協力／兵庫県教育委員会
製　　作／**東映株式会社**

■上映時間 36分　本体価格 80,000円（税抜）

DVD … 字幕副音声版　〔C#7292〕
VHS … 字幕副音声版　〔C#7293〕
VHS … 通常版　〔C#7294〕

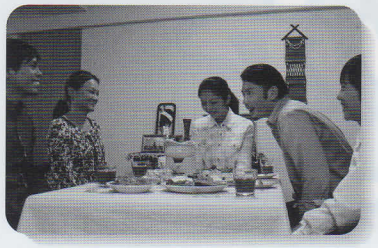
向井弓枝は、パート先のスーパーで、高齢の客のおぼつかない行動に不快感を持つ。自宅のマンションのエレベータでも、高齢の人や障害のある人に対してイライラを募らせる。弓枝は、面倒な人が多く住むこのマンションではなく、一戸建てや新築マンションに引っ越したいと、夫の勇に訴える。

弓枝の一人息子の輝は、空オタクだ。いつも空や雲のことを考えていて、友だちもいない。カメラを抱えた輝が自宅に帰ってくると、隣の部屋のドアが開き、見知らぬ外国人が引越をしている。外国人に対して偏見を持っている弓枝と勇の話を聞き、輝も「みんな不法滞在なんだから送り返せばいい」と言う。



輝がマンションの屋上に行くと、同じ年頃の少年・龍太が空にカメラを向けていた。空好きの二人は意気投合し、輝は龍太を家に招く。夕食をいただいたお礼にと、龍太の母の美里が、故郷福島の草木染めの布を持ってくる。最初は喜ぶ弓枝だったが、パート仲間の意見もあり、放射能への恐ろしさから布を捨ててしまう。そしてそれを、龍太がゴミ置き場で発見する。

学校からの帰り道、輝は、龍太が同級生たちから放射能のことでいじめられているのを見つけ加勢するが、二人とも投げ飛ばされる。同級生を非難する輝に、「お前も同じだろ」と龍太は叫び、「草木染めをなぜ捨てたのか」と詰め寄る。それを同じマンションの高齢者・千代子とタイ人・ロークが止める。帰宅した輝は母を責め、家を飛び出す。



輝を探す弓枝と勇。輝は、隣のタイ人夫婦・ロークとノイのところにいた。夫婦はタイ料理店で働いていて、店を持ちたいので試食してほしいと申し出る。皆で食卓を囲みながら、ノイの思いを知った輝は、廊下の鉢植えを割ったことを謝り、勇も偏見を持っていたと告げる。握手をする勇とローク。その様子を笑顔で見つめる弓枝は、ふと台所の隅に、自分が捨ててしまった草木染めがあることに気づく。

ノイから、草木染めを譲ってもらった弓枝は、美里の家に。そして、自分の気持ちを伝えようとするが・・・。

学習のねらい

- 間違った捉え方や思い込み、偏見などで他者を排除していないか、日頃の自分自身の言動に込められた意識について振り返る。
- 自分の偏見に気づき、自らの言動につなげていくことの大切さについて、自分の問題として考える。
- お互いを認め合い、共感し、交流することによって、人と人とのつながりや絆を深めていくことのすばらしさを認識する。

○スタッフ　プロデューサー／中鉢裕幸・鎌田幸人　脚本／山上梨香　監督／高橋　浩

関東営業推進室　東京都中央区銀座3-2-17　〒104-8108　☎03－3535－3631
関西営業推進室　大阪市北区梅田1-12-6　〒530-0001　☎06－6345－9026
広島出張所　広島市中区橋本町5-2　〒730-0015　☎082－511－2066
福岡出張所　福岡市博多区中洲4-3-18　〒810-0801　☎092－262－3101

●お買い上げは……